

花川病院に入院されたことのある患者さんおよびそのご家族の方へ

当院では、下記の臨床研究を行っております。本研究の対象者に該当する方で、研究のためにご自身のデータが使用されることを望まれない場合やご不明な点がございましたら、お手数ですが末尾の担当者までお知らせください。

【研究課題】 腰部疾患患者における体組成の変化とFIM利得との関連

【研究機関名及び自機関の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 医療法人 喬成会 花川病院

研究責任者 本庄陽葵・リハビリテーション部理学療法科

【研究期間】

承認日～2027年3月31日（予定）

【対象となる方】

研究対象者はこれまで花川病院に椎体骨折および腰部脊柱管狭窄症で入院された方です。

【研究目的・意義】

生体電気インピーダンス法（Bioelectrical Impedance Analysis：BIA）は、非侵襲的かつ簡便に体組成を評価できる方法として臨床で広く用いられています。なかでも位相角（Phase Angle：PhA）は細胞膜の健全性や筋質を反映する指標とされ、身体機能や日常生活動作（Activities of Daily Living：ADL）との関連が報告されています。しかし、回復期リハビリテーション病棟に入院する腰部疾患患者において、体幹および四肢の部位別PhAや体組成の経時的変化とADL回復との関係については十分に検討されていません。

本研究では、当院に入院した椎体骨折および腰部脊柱管狭窄症患者を対象に、最初のBIA測定時の部位別PhAおよび体組成指標とその後の変化に着目し、FIM利得との関係を検討することを目的とします。

【研究の方法】

対象は当院に入院された椎体骨折および腰部脊柱管狭窄症患者の内、データ欠損の無い者とし、体組成の因子にFIMの点数、握力やBBSの点数を検討的に加えPhAとFIM利得の関係を考察したいと考えています。

統計解析では、FIM利得および基準時点の部位別PhA（下肢・上肢・体幹）を用いてWard法による階層的クラスター解析を行い、患者を分類しました。さらに、各群の体組成指標および機能評価（Berg Balance Scale・握力）の差をWilcoxon順位和検定により比較しました。統計解析には改変Rコマンドー（ver. 4.4.3）を使用し、有意水準は5%としています。本研究は花川病院の倫理審査委員会の承認に基づき行われます。

【個人情報の保護】

本研究に関わって収集される情報は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。取得した情報は、解析する前にあなたの氏名・住所・生年月日等の個人情報を削り、どなたのものか分からないように匿名化処理をします。

本研究のためにご自分（あるいはご家族）のデータを使用してほしくない場合は、下記の問い合わせ先に、末尾に記載されております掲載日から60日以内にご連絡ください。研究に参加いただけない場合でも、将来にわたって不利益が生じることはありません。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究の成果は、あなたの氏名等の個人情報が明らかにならないようにした上で、学会発表や学術雑誌などで公表します。

本研究は、花川病院倫理委員会の承認を受け、花川病院病院長の許可を受けて実施するものです。

本研究について、わからないことや聞きたいこと、何か心配なことがありましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

2026年7月20日

【連絡・お問い合わせ先】

研究責任者：本庄陽葵

連絡担当者：北井宏哉

〒061-3207 石狩市花川南7条5丁目2

医療法人 喬成会 花川病院

電話番号：0133-73-5311

Email: reha@kyouseikai.jp